

特別連載寄稿「健康、心、薬」第八弾

●千葉大学名誉教授、薬学博士 佐藤 哲男氏 寄稿

▼第9話 スーパーでも薬が買える時代

これまでは、患者さんは病院で診察を受けた後、処方箋によって病院内の薬局か街の調剤薬局で薬を受け取っています。

この様に病院で出された薬を「医療用医薬品」（処方箋薬）と呼びます。これに対して、昔から処方箋なしでも薬局やドラッグストアで購入出来る風邪薬、胃腸薬などがあります。この様な薬を「大衆薬」、「一般用医薬品」、「OTC薬」などといいます。OTCの意味は、“オーバー(O)・ザ(T)・カウンター(C)”で、患者がカウンター越しに薬剤師から直接説明を聞いて品物を受け取ることをいいます。これまでの OTC 薬は間違っても飲んでそれほど危険なものはありませんでした

2009年6月1日に法律が改正され、多くの新しい医薬品が OTC 薬として追加されました。それらは、現在使われている医療用医薬品の中から、これまでに病院での治療に大きな実績があり、その上副作用の心配が少ない医薬品について、薬局やスーパーなどで処方箋なしでも購入できるようになりました。この様な薬を「スイッチ OTC 薬」といいます。スイッチとは、「医療用医薬品」から「一般用医薬品」（大衆薬）に切り替わったことを意味します。勿論、今回スイッチ OTC 薬になった薬は、病院でも今まで通り使われます。スイッチ OTC 薬自体の価格は、同じ成分でも病院で使われる医療用のそれよりも若干高く、薬局で買う場合には健康保険も適用されません。しかし、病院での診察料、検査料や処方せん料などは不要ですので、全体としては安く済む事が多いです。その上、効果も医療用と同じで、診察や調剤の待ち時間がかからない点で患者にとっては便利です。

スイッチ OTC には、水虫の薬や、胃十二指腸潰瘍の薬でよく使われている H₂ ブロッカー（エッチツブロッカー）（商品名：タガメット、ザンタック、ガスターほか）などが含まれています。H₂ ブロッカーは胃潰瘍の原因の一つと考えられている胃酸の過剰な分泌を抑えることから、長年にわたり病院では胃十二指腸潰瘍の優れた薬として使われています。これにより、早期の胃潰瘍では手術なしで治療することが出来るようになりました。

しかし、一つ問題があります。H₂ ブロッカーの場合、一錠に含まれる含有量は「医療用」よりは少ないですが、これを故意に、あるいは誤って数錠一回に飲んだら大変危険です。H₂ ブロッカーは腎臓からおしっこと一緒に体外に排泄されますので、高齢者など腎臓の働きが低下している患者では、多めに飲むと体内に蓄積し副作用がみられることが考えられます。H₂ ブロッカーのほかに、風邪薬の主成分であるアセトアミノフェン（パラセタモール）も、大量に飲むと重症の肝障害になります。今後は高コレステロール低下薬、高血圧や糖尿病、薬品もスイッチ OTC 化することが検討されています。

今回の薬事法改正により、OTC 薬はその危険性の大小により、第一類、第二類、第三類の三種類に分類されました。第一類 OTC 医薬品は決められた量以上に飲むと重症の副作用が出る薬です。この中には、前述の「スイッチ OTC 薬」も含まれます。第一類医薬品は、一般の人が勝手に使うと副作用が懸念されますので、購入の場合は、薬剤師がその薬について十分に説明することが義務付けられています。これらの薬は原則として短期間に留め、重症の際や服用しても症状がよくなるらない場合は、直ちに医療機関を受診することをお勧めします。

今回の法律改正の大きな変更点として、薬剤師以外でも薬の販売ができる資格が新たにできたことです。それは、都道府県ごとに実施される試験に合格すると、「登録販売者」という資格が取得でき、第二類及び第三類 OTC 医薬品の販売ができます。第二類医薬品は、第一類医薬品以外のもので、これまで、街のドラッグストア、コンビニなどで買うことができた薬の多くはこの分類に含まれます。これらの薬は薬剤師又は登録販売者が常駐する店舗のみで販売できます。この場合でも、販売者はできるだけ購入者へ内容、成分、その他注意事項を説明することになっています。

なお、上記の第一類医薬品と第二類医薬品については、店頭での対面販売を原則とするため、ネット販売はもとより、電話やメールで相談した上での通信販売や、緊急時に薬剤師等が消費者宅へ直接届ける形の販売等は禁止されています。ただし、これまで長年にわたり通信販売で購入し使用していた人や、離島の居住者で薬の販売店がなく通信販売に頼っている人は、暫定的に今後二年間はそのまま通信販売で購入し使用することが認められました。第三類 OTC 医薬品は、上記以外の一般用医薬品です。これらの医薬品については、購入者が特に希望しない限り、販売者は商品についての説明義務はありません。

OTC 薬は約 3 2 0 品目あり、その中で第二類と第三類を合わせると、全体の約 9 割にあたります。今後は登録販売者が常駐するコンビニやスーパーなどで、第二類、第三類医薬品は 2 4 時間いつでも買うことができ大変便利になります。

最後に一言。薬はその使い方を間違えると大変危険です。多く飲んだからといって効果が大きくなるわけではありません。むしろ、効果は同じで副作用だけが強く出ますので、決して決められた量以上は飲まないで下さい。

*** 特別連載寄稿「健康、心、薬」第九弾に続く！！**

